

目的

人間が衣服を着用するとき、その重量のほとんどは肩によって支えられている。肩の稜線における衣服との接合部位が、点より線、線より面と拡大移行するにしたがって加重は拡散され、肩にかかる被服圧の軽減にもつながる。肩部位における衣服のフィット性は、着心地に影響を与えるだけでなく、人体の動きに伴う着くずれにも関係が深い。しかし、人体の肩部の形状は個人差が大きいことと、その三次元的測定が困難なため類型化も難しい。そこで今回、肩部位を中心に人体の三次元計測を行い、肩形状の類型化を試み、スローパーの肩縫目線に及ぼす影響について検討を行った。

方法

1. 測定用衣料を着用した被験者の、体表面に17箇所の計測点を求め、これと並行して身長、体重、胸囲、胴囲、腰囲の5項目について計測を行った。
2. 計測についてはコード化パターン光投光式非接触三次元測定器（計測時間は約10秒）を用い計測点間の距離、角度、並びに横断・縦断面を求めた。
3. これら断面図より1体に付き約70項目のデータを求め、クラスター分析を行い類型化を行った。

結果

類型化した結果、肩角度、肩付、肩甲骨の突出並びにその状態と体幹部の厚みに特徴がみられた。これらからスローパーにおける肩線に及ぼす影響を検討した。